

難しいことを 易しく、奥深く、楽しく！

東京一極集中に対して、
関西の文化や表現力の豊かさを見直そう

西村 嘉郎 ◆朝日放送株式会社 取締役相談役
森本 靖一郎 ◆理事長
河田 梯一 ◆学長



ABC朝日放送は6月23日、移転した新社屋からの放送を開始した。水の都らしい景観の広がる堂島川に面した新社屋は、「デジタル時代の創造工場」が基本コンセプト。社屋の建設と移転という大事業を代表取締役社長として成し遂げ、相談役となった朝日放送の西村嘉郎さんは、昭和30年代前半に関西大学の天六学舎で学んだ。「力強い創造集団」を率いてきた人は、情熱を秘めて穏やかに語る。

◆「デジタル時代の創造工場」が誕生

森本 先日、新社屋竣工の内覧会に招待していただいたとき、21世紀の放送局はここまで来たのかと驚きました。スタジオの規模と設備はもちろん、木と芝生の緑が映える庭の向こうに中之島のパノラマが広がるリバーデッキも、情報と安らぎを提供する大きな力になると感じました。

西村 2003年に阪大病院跡地の再開発について公募がありました。「水の都」復活につながる、魅力的な水辺のまちを創造する」という方針に沿って事業企画コンペが行われ、情報発信基地として評価された朝日放送が西側地区を取得しました。建築デザインは隈研吾さんにお願ひし、水辺の自然と一体化した上品な建物ができました。

制作系のA・Bスタジオ、情報番組のCスタジオ、報道番組のNスタジオと、5つのラジオスタジオ、そして多目的に使用できるABCホールがあります。「デジタル時代の創造工場」と位置づけ、新しいコンテンツを創造する最新鋭の設備を備えています。

河田 西村さんが手がけられた「探偵！ナイトスクープ」が20周年を迎えたそうですが、あの番組は大阪らしいユニークな内容で、東京でも好評らしいですね。この素晴らしい新社屋から、独創的な番組がどんどん生まれてくるという期待感が高まります。

ここは大阪の文化の中心地で、周りには大阪国際会議場や大阪市立科学館、大阪大学中之島センターなどもあります。大阪は江戸時代から、明治、大正、昭和の戦前まで、日本経済の中心地、商都であるとともに“文化発信のまち”でした。近年は文化的にも地盤沈下し、求心力を失っているのが残念です。そんななか、ここに大阪の文化の新しい発信拠点ができたことは大きな意味を持っています。

西村 朝日放送のある街区は「ほたるまち」と名づけられました。かつて中津藩(大分県)の蔵屋敷があったところで、福沢諭吉誕生地の碑があります。この歴史のあるまちからどのようなコンテンツを発信し、関西や大阪の地域文化に貢献していくかということは、これからの大きなテーマです。

◆初めて知った「学ぶことの楽しさ」

森本 西村さんとほぼ同時期に関西大学の天六学舎で学ばれた卒業生には、国土交通大臣の冬柴鐵三さん、株式会社きんでん代表取締役副会長の中谷修己さん、株式会社オービック代表取締役会長兼社長の野田順弘さんなど立派な方がたくさんいらっしゃいます。

います。西村さんは、どのような学生時代を過ごされたのですか。
西村 父親が早く亡くなったため、僕は小学校の教師をしていた母親に育てられました。県立西宮高校を卒業し、郵便局に1年ほど勤めたあと、朝日新聞社の調査部で資料整理の仕事しながら関西大学に通いました。朝9時に出勤し、夕方5時ごろになると部長以下みんなが「学校へ行ってこい」と言ってくれる。当時の新聞社は朝日に限らず、人を育てるという社風があり、天六学舎で学んでいる学生には新聞社に勤めている人が多かったですね。

地下の食堂でカレーやうどんを食べて、暮れていく教室で授業を聴くことがすごく新鮮でした。あの暗い電球の階段を上りながら、今この時間を大切にしようという気になったものです。苦学生とかいう意識はなく、学ぶことの楽しさを教えてもらいました。授業が終わると夜の11時過ぎに宝塚まで戻り、そこから家まで6キロほどの道を歩いて帰るのも、あんまり苦にはなりませんでした。

河田 そして、翌朝また9時から仕事となると、かなりストイックな生活ですね。今は学ぶことを強く望んで入学するというよりも、一種の通過儀礼のように考えて、大学に入って出ていく学生が多くなっています。文学部で哲学科を選ばれたのはどうしてですか。

西村 青春時代は、さまざまな悩みを抱え、自己嫌悪に陥ったりするものです。当時は実存主義が全盛の時代。自分を一度、足元から見つめ直したいという気持ちがありました。関大で学んだ昭和30年代前半は、「もはや戦後ではない」と言われ、日本の社会は豊かになりつつありましたが、今日から見ればみんな貧しく、まじめに勉強した時代でした。そこで、学ぶことの楽しさを初めて知ったことは、僕の人生にとって非常に大きかったですね。

◆創造性のある人材の輩出に期待

森本 西村さんは在学中に朝日放送に入社されました。その後は順調に歩まれたように思いますが、挫折や失敗はありましたか。
西村 どちらかというと、目立つことをするよりもこつこつやるタイプなんです。テレビ番組制作の現場を歩いてきて、そんなに大きな出来事はないですが、視聴率が悪いと苦悩する日が続きます。番組の企画がまとまらないで悩むことも多かったです。

■鼎談



森本 靖一郎 (もりもと せいいちろう)
1932年奈良県生まれ。関西大学文学部、法学部卒業。母校に奉職し、67年に関西大学教育後援会幹事に就任。「大学と家庭のかけ橋」をモットーに、大学と父母間に信頼の絆を作り上げた。飛鳥文化研究所の開設にも尽力。事業局長、理事、常務理事を経て、2000年専務理事、04年10月理事長に就任。「強い関西大学」を提唱している。

私も「強い関西大学」を標榜しています。それはスポーツばかりではありません。教育、研究、社会連携などにも強い大学を目指しています。

放送局に入るといことは、ものを表現する手段を得るわけです。例えば、5分間の天気予報でも僕は楽しめる。天気予報をより分かりやすく楽しめる内容にするために、創意工夫をする。この仕事は自分にぴったり合っていました。社長になってから常に「力強い創造集団を目指そう」と言ってきました。総務や経理、人事など事務系の人々も、仕事に対する創造性を発揮することによって会社は変わって思っています。

森本 私も「強い関西大学」を標榜しています。それはスポーツばかりではありません。教育、研究、社会連携などにも強い大学を目指しています。120年を超える伝統を有する関西大学は、従来7学部だったのですが、河田学長とコンビを組んで、たかだか4年の間に、新たに8つの学部を創設することになりました。

昨年4月に政策創造学部、システム理工学部、環境都市工学部、化学生命工学部がスタートしています。2009年4月には外国語学部を新設するほか、2010年4月には、健康福祉、スポーツ・身体文化、健康とユーモア科学の3領域からなる健康文化学部を、堺市に開設予定です。また、JR高槻駅前に新キャンパスを設けて、小学校、中学校、高等学校、大学の社会安全学部(仮称)を設置します。災害時の避難場所としても有効に使える設計を考えています。隣接地に高槻市が公園を造ることも決まり、市民の憩いの場にもなります。

千里山キャンパスも学舎を完全に整備しました。第1学舎(旧法文学舎)や第2学舎(経商学舎)、第4学舎(旧工学部学舎)を新築しました。卒業生が大学に帰って来て、全く変貌したこのキャン

パスを見て、浦島太郎の心境だと言っておられました。

河田 同じく2010年の春に、本学と大阪医科大学、大阪薬科大学の3大学共同で、生命科学系新学部を設置することも決まっています。また、教育し研究するだけでなく、社会に貢献しなければならないということで、地域との連携、市町村など自治体との連携もどんどん積極的に進めています。

健康にもつながる笑いの文化は、新設する健康文化学部のテーマの一つです。社会学部の木村洋二先生らが開発した「笑い測定機」は、海外にも紹介されました。既に吉本興業さんとの連携が進んでいますが、朝日放送さんとも今後、一緒にやっていければいいですね。

西村 朝日放送には関大出身者がたくさんいて、それぞれ元気のある人物です。優秀な放送人の育成や、大阪の地域文化のために、連携して何かできればと思います。大阪を元気にしていく、創造性のある人材を、どんどん輩出していただきたい。

◆奥深く掘り下げて、学びの楽しさを!

河田 「探偵! ナイトスクープ」のほかにも、「プロポーズ大作戦」「ただいま恋愛中」「新婚さんいらっしゃい!」など、多くの人気番組を制作してこられました。これからのテレビ番組のあり方について、どのようにお考えですか。

西村 かつて、「面白くなければテレビじゃない」と言われた時代がありました。デジタル化にともない、テレビ画面も大きくなって情報量が増え、単に面白いだけでは見られない時代になってきました。われわれ作り手は今まで、分かりやすく伝えることを念頭に置き、難しいことを分かりやすく、面白く見せることに力を入れてきました。「分かりやすく」から「面白く」へ飛んでしまっ、そこに「奥深く」がないのが問題です。環境問題でも何でも、タレントさんなどを入れて楽しく見せていこうとしていますが、奥深さが欠けています。これからは難しいことを「易しく」、「奥深く」、「楽しく」でないと、テレビは見られなくなると思っています。

河田 やはりテレビももう少し知的になる必要があるのではないのでしょうか。大学もかつては、易しいことを難しく教えていました。そうではなく、難しいことを易しく教えて、その中で奥深いことを教えていけば、学ぶ喜び、知る喜びが得られるでしょうね。

西村 青春時代はそれこそ道に迷っているばかりですが、学ぶということは自分の進むべき方向性を探ることじゃないかと思えます。少しずつ奥深く進んでいくと、自分の方向性が見つかるのではないかと。学生の皆さんにも、奥深く掘り下げていったときの楽しさを見つけてほしいと思います。

◆東京一極集中はメディアにも責任

西村 新社屋は朝日放送の歴史を踏まえ、視聴者との連携を考えた建物になっています。以前の大淀社屋にもABCホールがあり、そこで番組を開発することができました。視聴者参加型のトーク番組をずいぶん制作しました。有名な俳優さん、女優さんは、みんな東京にいますから、ドラマを作ろうと思えば呼ばな



西村 嘉郎 (にしむら よしお)
1937年大阪生まれ。60年関西大学文学部哲学科卒業。58年に朝日放送株式会社、編成局長、常務取締役を経て、2002年6月代表取締役社長に就任。08年6月に社長を退任し取締役相談役に就任。「プロポーズ大作戦」「ただいま恋愛中」「和朗亭」など、数々のテレビ番組のプロデューサーを務める。学校法人関西大学評議員、関西大学客員教授。

もう一度、大切な遺産である関西の文化を見直すべき時期に来ていると思います。その意味でも、「力強い創造集団」を目指していきたい。

ければいけない。そうするとお金がかかる。限られた予算の中で、関西の特性を生かして、会話の妙であるとか、生きている人たちの様子や日常を番組化しようということになったのです。

「夫婦善哉」に始まり、「おやじバンザイ」「ただいま恋愛中」「新婚さんいらっしゃい!」などの一連の番組を、人生トーク路線と呼んでいます。人生のそれぞれの場面で、いろんな思いを切り取って番組化していくことができたのは、ABCホールがあったからです。

森本 東京一極集中は、高層ビルの建設ラッシュを見ても分かるようにすごい勢いです。これに対抗していく関西文化の砦の一つが朝日放送でしょう。関西の持っている強みといたら何でしょうか。

西村 東京一極集中は、メディアにも大いに責任があると思います。東京の六本木なんかをトレンドとして、われわれも発信してきた。東京ナイズされたものが魅力的であると疑わずに。ゴールデンタイムの番組は、今ほとんど東京で撮っています。当社の全国ネット番組で、こちらで撮っているのは「新婚さんいらっしゃい!」「パネルクイズ アタック25」「朝だ! 生です 旅サラダ」などわずかです。関西の他社は、全国発信する番組もほとんど大阪で撮っていません。

タレントさんが東京にいることのほかにも、大阪弁はスポンサーが毛嫌いととか、大阪のにおいのするものは全国ネットになりにくい、東京で視聴率が上がらないといった背景がありました。吉本などのタレントも東京へ行ってしまっている。そ

れなら東京で作れということになる。だけど、もう一度、大切な遺産である関西の文化を見直すべき時期に来ていると思います。その意味でも、「力強い創造集団」を目指していきたい。

河田 人気のトーク番組が関西で生まれたということは、関西人の表現力の豊かさだと思うのです。この間、8大学の学長が集まって大学を紹介する、新聞社主催のイベントが東京で行われました。7大学まで東京と横浜の大学、関西からは本学だけだったのですが、こんなことを言うのはなんですが、関東の大学の学長先生はすごく生真面目な方が多く、関東と関西の大学の文化的な違いを感じました。

関西の大学は、自らの文化を担う人材を養成していかなければなりません。本学にある、なにわ・大阪文化遺産学術センターの、幅広い研究・教育活動を通し、関西の文化の創造と継承のため、一層の努力をしたいと考えています。

森本 6月の末に東京有楽町の朝日ホールで、「かんだい 明日香まほろば講座」という明日香村と連携したシンポジウムを開いたところ、500人を超える参加者があり、会場は満員でした。当日は、高松塚古墳壁画を再現した実物大レプリカを展示し、発掘当時の美しい壁画の色彩をご覧いただきました。このような関西の歴史・文化は東京にないものです。これは関西大学にとっても大きな強みであり、この強みを生かしていかなければなりません。

今年の10月19日に開催する校友会の総会で、西村さんには講演をしていただく予定です。今後ともよろしく願っています。



河田 徹一 (かわた ていいち)
1945年京都市生まれ。大阪外国語大学中国語学科卒業。大阪大学大学院で中国哲学を専攻。86年関西大学教授。文学部長、副学長を歴任し、2003年10月学長に就任。1991年に在外研究員としてプリンストン大学で中国思想史を研究。文部科学省大学設置・学校法人審議会委員。社団法人日本私立大学連盟常務理事。財団法人大学基準協会理事。

教育し研究するだけではなく、社会に貢献しなければならぬということ、地域との連携、市町村など自治体との連携もどんどん積極的に進めています。